

富士紀行（31） 須走小・中学校2題（H11/11/21記）

1 須走中学校

小山町立須走中学校が、創立50周年を迎え、H12年10月に記念式典が行われた。須走中は、昭和22年4月、組合立高根中学校須走分校として開設された。教員4名、生徒数43名でのスタートであった。昭和25年4月に須走村須走中学校として独立、校長は小学校と兼務であった。昭和45年現在地に校舎を新築移転した。平成12年で創立50周年を迎えたわけである。開校以来の卒業生は、第一回の9人から数え、約2,000名に上るといふ。

平成12年11月現在の生徒数は143名である。自衛官の子弟が全校生徒の4割を占めている。小生の前任地の練馬北町小学校及び中学校にも同様の傾向があった。生徒が登下校時に校舎に向かって一礼したり、来校者に元気良く挨拶する姿が見られる。

昭和50年編集の駿東教育史須走中学校の項には次のように既述されている。「太刀山の雑木林に囲まれた標高800mの高原に須走中学校がある。自然環境が素晴らしいのが本校の特色のひとつである。自衛官の子弟が約60%を占め、その出身地は全国に亘り、個々の生徒の能力は優れているが、転出入が激しいので、校風や伝統が育ちにくい。然し、連帯意識の高揚やたくましい力の育成を目標に掲げ、全校歌声運動や早朝マラソンを実施している。朝と帰りのハーモニー、早朝の力強いマラソンをとおして本校のひとつの姿が育ちつつある。」

2 須走小学校

H12/11/13の静岡新聞によれば、小山町須走地区の子供会連合会は11日、富士山須走口の県道を清掃する「富士アザミライン・クリーンウォーク」を行った。この清掃ボランティア行事は10年以上前から行われ、秋の恒例行事となっている。今年は須走小学校の児童とその父母等約200人が集まり、約8kmのゴミ拾いをした。

教育改革の中で、奉仕活動をさせるべきか否かの議論がかまびすしいが、地域と一体となった活動の中で子供たちの情操を育てる施策を考える方が先決なのだろう。

近年の学級崩壊や子供のいじめ問題も地域と学校と家庭が真に一体となって取り組めば解決されるはずだ。須走の子供たちは健全である。地域のコミュニティが機能している証左であろう。

須走小学校は、「開蒙舎」として明治7年に創設され、同15年には岳東小学校として、須走字滝の台に開校、尋常小学校、国民学校を経て、昭和22年須走村立須走小学校と改称（当時の教員数4名、児童73名）された。29年富士学校創設に伴い、児童が急増、年度末には204名となった。昭和31年小山町立となり、39年には中学校長兼務が解かれた。